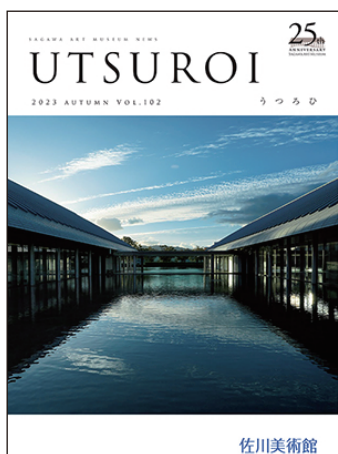
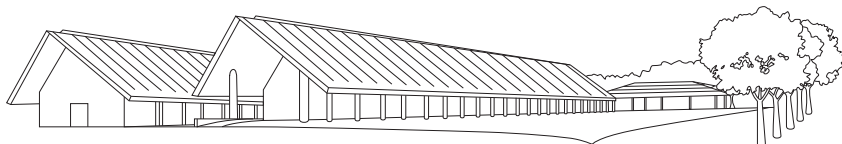


## 佐川美術館季刊誌

# うつろひ VOL.102

## リリースのおしらせ



佐川美術館友の会会員の方を対象に  
 年4回季刊誌を発行しており、  
 展示会のみどころや耳より情報をお知らせしています。  
 10/1 発行の102号では、  
 『ガウディとサグラダ・ファミリア展』を特集します。  
 耳寄り情報満載のその他コーナーもお見逃しなく！

## 目次

企画展 ガウディとサグラダ・ファミリア展	1-2
深井建築 LABO	3
滋賀近現代の名建築をたどる	PICK UP 4
吉左衛門 X 浦上玉堂 X 樂直入	5-6
コレクション展 平山郁夫 風土の美しさ	PICK UP 7
コレクション展 佐藤忠良 自然との対話	8
フジイさんが行く！ SHIGART	9
【告知】次回展/SNS	10
教えてセンパイ！ / アンケート	裏表紙

次のページで  
 ちょっとだけ紹介！

年会費 3,000 円  
 でオトク！

友の会会員  
 募集中



詳しくは  
 コチラ

友の会会員の方には、季刊誌を  
 ご自宅までお届けします。  
 その他にも特典がいろいろ！  
 詳しくは美術館公式 HP 内、  
 友の会ページをご覧ください。

Join the Friends  
 of the Museum

**E 琵琶湖ホテル** 竣工:1998年



**湖の中にあるような感覚を味わう**

世界的建築家シーザー・ペリによるデザインで、目を引く青と緑の外装は、琵琶湖と周辺に連なる比叡の山々をイメージしています。中でも注目したいのが、ホテル中央部の内装。藍色の壁に穿たれた円形の窓とスカイライトは、まるで湖に注ぐ光を湖底から仰ぐようです。琵琶湖と一体になる感覚を味わってみては。

滋賀県大津市浜町2-40 ☎077-524-7111 料155台  
JR大津駅から無料シャトルバスまたはタクシーで約5分

**D びわ湖大津プリンスホテル**

竣工:1989年



**世界のタンゲが手掛けた  
びわ湖の特等席**

滋賀県一の高さ(約133m)を誇り、琵琶湖南湖のランドマークともいえるプリンスホテルですが、その建築を手掛けたのが丹下健三だをご存知の方は少ないのでは。国立代々木競技場や東京都庁舎を手掛けた丹下は、日本近代建築の礎を築いた建築家として知られています。高層階からのパノラマビューは必見!

滋賀県大津市におの浜4丁目7-7 ☎077-521-1111 料約500台  
JR大津駅から無料シャトルバスまたはタクシーで約10分

**C 蘆花浅水荘(記念寺)**

【国指定重要文化財】 竣工:1921年

**知られざる滋賀の名建築**

マンションや商業施設が建ち並ぶ膳所エリアに、緑に囲われひっそり閑と建つ蘆花浅水荘は、日本画家・山元春挙が手掛けた自身の別邸です。庭をはじめ、遊び心満載のこだわり空間はどれも一見の価値あり。春挙に思いを馳せ、ノスタルジーを感じながら過ごす時は、何にも代え難い時間になるはずです。

滋賀県大津市中庄1丁目19-23 ☎077-522-2183  
1000円 見学の際は、事前に予約が必要  
なし 近隣の公共駐車場利用  
JR近江八幡駅から徒歩5分



# 滋賀近現代の名建築をたどる

サグラダ・ファミリア着工から現在に至るまでの約140年間、滋賀にも素晴らしい建築が次々と出ています。美術館と一緒に訪れたい名建築をピックアップしました。

**A ラコリーナ近江八幡**

竣工(草屋根):2014年



**人と自然が共生する「丘」**

人と自然が共に生きる空間を作りたいという思いを受け、棚田と緑の丘がある空間をテーマに藤森照信が手掛けた和洋菓子「たねや」「クラブハリエ」の旗艦店ラコリーナ。周囲の景観に溶け込むような外観も、植物を取り入れた建築を得意とする藤森ならではの、背後にある八幡山の景観を損なわないようデザインされた草屋根の形状にも注目してみて!

滋賀県近江八幡市北之庄町615-1 ☎0748-33-6666  
9:00~18:00、フードコートは10:00~17:00  
休なし(1月1日を除く) 料650台  
JR琵琶湖線 近江八幡駅より路線バスで約10分  
バス停 北之庄 ラコリーナ前

**B 旧八幡郵便局** 竣工:1921年

**ヴォーリスの足跡をたどる**

W.M.ヴォーリスは1905年にアメリカからキリスト教の伝道を志して来日し、医療・製薬・教育・建築と幅広く社会活動に従事しました。彼が活動の拠点にした近江八幡にはヴォーリス建築事務所が手掛けた建築が多く残されており、お散歩しながらのヴォーリス建築めぐりもオススメ。旧八幡郵便局は無料・予約不要で気軽に行けるのも◎

滋賀県近江八幡市仲屋町中8 ☎0748-33-6521 無料  
土日11:00~17:00(冬季は別)  
なし 近隣の公共駐車場利用  
JR近江八幡駅から路線バスで7分  
八幡堀八幡山ロープウェイ口下車



# 衣装が語る多彩な文化

世界各地を旅した日本画家・平山郁夫は、風景の他にも現地の人々やその営みにスポットをあてて作品を描いています。現地の人々との交流を楽しみにしていた平山は、たとえ片言でも現地の言葉で挨拶することを心掛け、なるべく同じ物を食べるようにしてコミュニケーションをとり、交流を深めたそうです。本稿では、交流を深めて描かれた人物画の中から、現地の人々の衣装に着目してご紹介します。

## NO IMAGE

著作権保護のため、  
画像を非表示にしています

《タージ・マハル》1998年

### インドを表す色

澄み渡る青空と純白のタージ・マハルを背景に鮮やかな緑色のサリーを着た女性が描かれています。サリーは、一枚布を体に巻き付けるように着るインドの伝統衣装です。地域などによって異なりますが、基本的にサリーの下には丈の短いブラウスとベチコートを身に付けます。乾季と雨季に分かれ、ほぼ熱帯に属するインドでは、暑ければ頭にかぶって日除けに、雨が降れば傘代わりにもなる実用性の高いサリーが主流となっています。また、サリーも日本の着物と同じように、普段着の他に晴れ着として着用するものがあります。例えば、本作品の女性が着ているサリーのように、金糸や銀糸などが織り込まれたものや刺繍が施されているような豪華なサリーは、フォーマルウェアとして扱われるようです。

インドの国旗は、黄(ヒンドゥー教)、白(和解)、緑(イスラム教)を表す色だといえます。本作品の色合いはまさにインドの国旗を思わせる配色です。多宗教国家であるインドの風土に深い感銘を受けた平山の平和に対する想いが偲ばれます。

## NO IMAGE

著作権保護のため、  
画像を非表示に  
しています

《ベリシラマ村の女 トルコ》1989年

### 色彩豊かなトルコの伝統衣装

カッパドキアから南西に80 km。トルコの内陸部に位置するベリシラマ村は、夏と冬および昼夜の寒暖差が大きく、雨が少ない地域です。本作の女性が着用する伝統衣装「シャルワール(脚衣)」は、日本のモンペをゆったりと大きくしたような形状で、動きやすく農作業にも適しています。また、空気を多く含むことができるため、夏は涼しく冬は暖かく、この地方の気候に適した機能性を持っています。イスラム教徒が多いトルコでは、『コーラン』の教えにより、女性は身体や顔をスカーフで隠す風習があり、本作品の女性も頭にスカーフを巻いています。オヤと呼ばれるトルコの伝統手芸によるスカーフの縁取りも見られ、細部まで丁寧に描かれています。

#### Information

平山郁夫  
風土の美しさ  
前期

会期：開催中～  
12月3日(日)

#### Pick up

### 伝統衣装の

### ‘色’と‘意味’

信仰する宗教や国によって違いはありますが、伝統衣装には色に意味がある物があります。例えば、インドにおいて赤は希望と新たな始まり、黄色は幸福と知識などを意味することから、花嫁衣装に好まれます。また、白は死を意味する色として、未亡人は白のサリーを着用するようです。西洋や日本では、婚礼時に白い衣装を着用するのと違うところが面白いですね。

\*日本では、喪服の色は白が主流であった時代があります。現代でも、一部の地域では白い喪服が着用されています。

